

小 学 校

平 成 5 年 度

教育研究員研究報告書

教育課題

東京都教育委員会

平成5年度

教育研究員名簿

分科会	No.	地 区	学 校	氏 名	備 考
第一分科会	1	港 区	本 村 小	野 崙 勝	世話人 代表世話人
	2	墨 田 区	小 梅 小	梶 原 保	
	3	大 田 区	六 郷 小	志 村 万里子	
	4	中 野 区	野 方 小	村 尾 芳 之	
	5	板 橋 区	高 島 第三小	鈴 木 徳	
	6	葛 飾 区	木 根 川 小	長 堀 治 夫	
	7	立 川 市	第 六 小	富 田 清	
	8	町 田 市	町 田 第六小	中 溝 珠 枝	
	9	稲 城 市	稲 城 第四小	野 本 秀 樹	
第二分科会	1	新 宿 区	淀 橋 第一小	矢 作 良 輔	世話人
	2	江 東 区	豊 州 小	海 老 原 誠	
	3	世 田 谷 区	赤 堤 小	小 澤 英 雄	
	4	杉 並 区	三 谷 小	邊 見 公 子	
	5	練 馬 区	光が丘七小	河 原 文 江	
	6	江 戸 川 区	第 四 葛 西 小	田 中 博 樹	
	7	三 鷹 市	大 沢 台 小	清 家 千 寿 子	
	8	田 無 市	西 原 小	宮 本 隆 介	
	9	羽 村 市	羽 村 東 小	池 田 泰 章	
第三分科会	1	台 東 区	根 岸 小	中 川 修 一	世話人
	2	品 川 区	大 井 第一小	青 山 一 男	
	3	渋 谷 区	常 磐 松 小	西 山 充	
	4	北 区	梅 木 小	酒 井 賢	
	5	足 立 区	高 野 小	大 串 すみゑ	
	6	八 王 子 市	鹿 島 小	増 田 潔	
	7	昭 島 市	武 蔵 野 小	氷 川 健 治	
	8	多 摩 市	北 落 合 小	岩ヶ谷 仁 利	

担当課長

教育庁指導部初等教育指導課長

小 島 宏

担当主任指導主事

教育庁指導部主任指導主事

生 越 詔 二

担当指導主事

教育庁指導部指導企画課指導主事

近 藤 精 一

目 次

新しい学力観に基づく指導法の研究

I	共通研究主題設定の理由	2
II	研究の内容・方法	3
1	各分科会の研究主題について	3
2	研究の進め方	3
III	一人一人のよさを生かすための支援の在り方（第1分科会）	
1	分科会研究主題設定の理由	4
2	研究のねらいと仮説	4
3	実践事例	6
4	研究のまとめと今後の課題	9
IV	児童が主体的に学習するための支援の在り方（第2分科会）	
1	分科会研究主題設定の理由	10
2	研究のねらいと仮説	10
3	実践事例	12
4	研究のまとめと今後の課題	16
V	一人一人の児童がより深い充実感を味わうための支援の在り方（第3分科会）	
1	分科会研究主題設定の理由	17
2	研究のねらいと仮説	17
3	実践事例	19
4	研究のまとめと今後の課題	23
VI	研究のまとめと今後の課題	24

新しい学力観に基づく指導法の研究

I 共通研究主題設定の理由

これからの小学校教育においては、社会の変化に主体的に対応し、たくましく生きることのできる心豊かな人間の育成を目指すとともに、一人一人の児童の自己実現に必要な基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の創造に努めていくことが大切である。

このような教育を実現していくためには、児童の内発的な学習意欲を喚起するとともに、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを培い、個性を重視した授業の創造が必要である。

また、児童一人一人のよさや可能性などを重視し、自己実現のために必要な資質や能力を養うとともに児童の側に立って肯定的な評価観に着目しながら、指導と評価の一体化に努めることが大切である。

このような学習を推進するに当たっては、次のような視点から指導方法や学習材の開発、評価の方法等の改善を図っていく必要がある。

- 1 一人一人の児童に学習の課題をつかませ、進んで課題の解決に当たり、充実感や成就感が得られるような指導方法の改善を図る。
- 2 体験的な活動や問題解決的な活動を通して、児童自らが意欲的に学習を進めることができるよう学習材の開発と指導方法の改善を図る。
- 3 児童一人一人が自分のよさに気付くとともに、他のよさをも認めながら、自分のよさを積極的に生かすことのできるような指導や評価方法の改善を図る。
- 4 児童一人一人が深い思考力や的確な判断力に支えられたものの見方や考え方等を豊かに表現できるよう学習材の開発と指導方法の改善を図る。

以上のような改善の視点に立った指導法を工夫し、「個性的で生き生きとした児童」「たくましく心豊かな児童」を育成することが小学校教育における最も重要な課題と受け止め本研究主題を設定した。

Ⅱ 研究の内容・方法

1 各分科会の研究主題について

新しい学力観に立った授業場面における児童の姿は次のように想定される。

- (1) 一人一人の児童が自分のよさや可能性を存分に発揮している。
- (2) 一人一人の児童が課題解決のために周囲の人的・物的環境に積極的にはたらきかけている。
- (3) 一人一人の児童が学んだことを新たな活動に生かしている。
- (4) 一人一人の児童が他者との良好な関係をつくりあげている。

一方、教師は「一人一人の児童の主体的な活動を盛り立てながら、必要に応じて児童にはたらきかけている」という姿が想起される。

そこで本研究では、上記のような授業を創造するために「一人一人の児童のよさを生かすこと」「児童一人一人が主体的に学習すること」「一人一人の児童が深い充実感を味わうこと」の観点に立って、特に教師の児童に対する支援のあり方に焦点を当てて、各分科会の研究を進めることにした。各分科会の研究主題は、次のとおりである。

- ・第一分科会 一人一人の「よさ」を生かすための支援の在り方
- ・第二分科会 児童が主体的に学習するための支援の在り方
- ・第三分科会 一人一人の児童がより深い充実感を味わうための支援の在り方

2 研究の進め方

共通研究主題を具現化するために、各分科会では次のような仮説を立てて研究を進めた。

- (1) 一人一人の児童の「よさ」を引き出し、個の「よさ」を認め合えるようにし、個に応じた支援を行うことにより、主体的・意欲的に学習に取り組んでいくことができる。(第一分科会)
- (2) 児童一人一人が課題をもち、自ら解決するための学習活動を支援することにより、児童は主体的に学習することができる。(第二分科会)
- (3) 児童自らの課題や見通しを生かした多様な学習活動を教師が保障し、一人一人のよさを認めることによって、児童はより深い充実感を味わい、新たな活動に取り組んでいくことができる。(第三分科会)

なお、研究を進めるに当たっては、特に下記の事項に留意した。

- (1) 授業を通して、具体的な指導方法、指導の手立てを検討すること。
- (2) 共通研究主題のもとに、他の分科会の成果を生かしながら継続的に研究を進めること。
- (3) 先行研究の成果を踏まえて研究を進めること。
- (4) 共感的な児童理解を基に、温かい学級づくりを進めること。

Ⅲ 第一分科会

一人一人のよさを生かすための支援の在り方

1 分科会研究主題設定の理由

これまでの学校教育では、ややもすれば教師が中心となり、知識や技能のみを重視したり、指導方法においても画一的な一斉指導が進められがちであった。指導内容によっては一斉指導が必要で効果的な場合もあるが、一人一人の児童の「よさ」を引き出し、発揮させるためには一人一人の児童の個性や能力に応じた授業の創造に努めていくことが必要である。

本分科会では、個の「よさ」を『一人一人の児童の思いや願いを実現するために、その子どもなりに思考をしたり、判断をしたり、表現をしたりする活動の中で発揮される個性的な働きであり、周囲の人たちからも共感を得られるもの』ととらえた。

そこで、教師は「よさ」を引き出し、発揮させるために、

- ・一人一人の児童が学校生活において、自分の考えを発表したり、互いの考えを認めたりすることができるような学級経営を工夫する。
- ・一人一人の児童が興味・関心をもてるように学習環境を整え、学習形態を工夫する。
- ・児童自ら課題を設定し、解決に向けて生き活きと取り組んでいけるように、一人一人の考えを尊重する。

このような支援が大切であると考え、本主題を設定した。

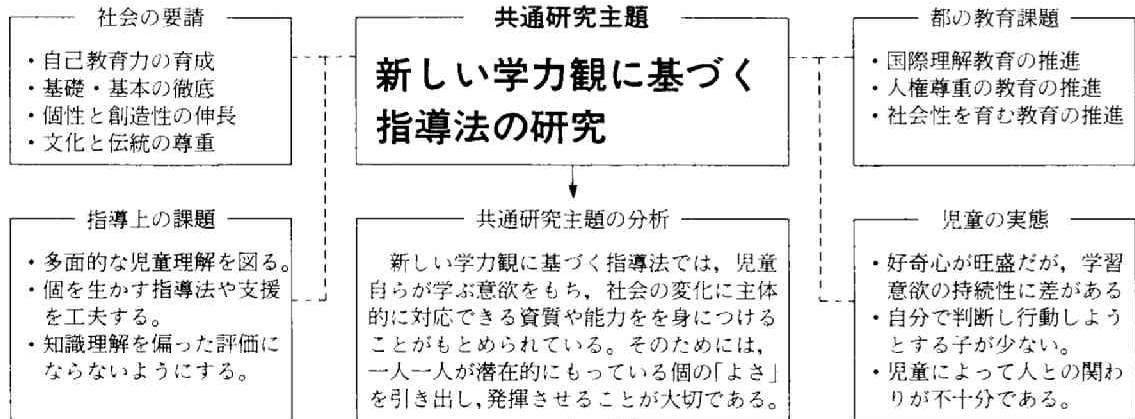
2 研究のねらいと仮説

児童一人一人が意欲的に学習に取り組むために、「一人一人の『よさ』を生かす個に応じた支援の在り方はどうあるべきか」を研究のねらいとして、次のような仮説を設定した。

学習過程において下記の3点で、個に応じた学習活動の支援をすることにより、一人一人の児童の「よさ」が生かされ、意欲的・主体的に学習に取り組む児童を育成することができる。

- 一人一人の児童が興味・関心をもつような問題提示
- 互いの「よさ」を認め合える活動の場の工夫
- 学習をふりかえさせる自己評価

研究の構想図



第1分科会研究主題

一人一人のよさを生かすための支援の在り方

研究の仮説

学習過程において下記の3点で、個に応じた学習活動の支援をすることにより、一人一人の児童の「よさ」が生かされ、意欲的・主体的に学習に取り組む児童を育成することができる。

- 一人一人の児童が興味・関心をもつような問題提示
- 互いのよさを認め合える場の工夫
- 学習をふりかえさせる自己評価

研究の視点

		学 習 過 程			
		個をみつめる	課題をつかむ	課題を解決する	学習をふりかえる
児童の活動	○経験・知識・技能を想起 起こす。 経験したこと 知っていること できること	○学習のめあてをもつ。 ○学習の見通しをもつ。 既習の学習・経験を生かす自分なりの解決方法を考え計画を立てる。	○自分の方法で解決する。 資料、情報を選択する。 操作、実験、試技	○学習の成果を確かめる ○自己評価 めあてが達成できたかわかる・できるようになったか 楽しく学習できたか 満足できたか 新たな課題を見つけたか	
	○学習に対する期待・願いをもつ。 こんなことをしたい できるようになりたい	○課題の確認や調整をする。 友達の意見を聴き、参考にする。	○解決できない場合、別の方法を試みる。 ○自分の考えを発表する。 発表の方法を工夫する。 ○友達の考えを聴ける ○互いに相談、助言しながら学習を進める。 友達のよいところを認める。 自分の足りないところに気付く。	○相互評価をする。 ○友達やグループの伸びを認める よくなってきたこと、できるようになってきたことを出し合い認め合う。	
教師の支援	○友達の特徴を知る。 友達のよいところを知る。 ○全体の中での自分をつかむ。	○教科目標にそった問題提示の工夫 ○課題をつかませるための工夫 ・興味・関心を喚起 ・資料、情報の収集・提示	○学習環境を整える。 ・教材、教具の充実 ・学習材の開発 ・スペースの活用 ・時間の確保	○成就観・満足感をもてるような場や評価の工夫 ○自分の伸びを確かめるように、自己評価を工夫する。 ・評価計画 ・カード	
	○個のとらえかた プレテスト、観察 自己評価、相互評価等	○見通しをもたせるための工夫 ・カード等の作成 ・教室掲示の工夫	○学習形態の工夫 ・個別、小集団、一斉 ○個に応じた対応 ・助言 ・ヒントカード	○互いのよさに気付くように、相互評価を工夫する。 ・発表会 ・発見カード	

育てたい児童の具体像

- ・学習課題に主体的に取り組み、意欲的に解決していく児童
- ・自らを評価し次の学習に生かせる児童
- ・友だちのよさを認め、お互いに高め合う児童

3 実践事例（第2学年 生活科）

(1) 単元名 「○○○ランドを作って遊ぼう」

(2) 単元の目標

- ・身の回りの材料や日用品、廃材等を使って動くおもちゃを工夫して作ることができる。
- ・友達同士で作品を発表し合い、友達や異学年児童と楽しく遊ぶことができる。

〈具体的目標〉

○ 生活への関心・意欲・態度

- ・身の回りにある材料を用いて、進んでおもちゃを作ろうとする。
- ・色々なおもちゃに関心をもって、楽しく遊ぼうとする。

○ 活動や体験についての思考・表現

- ・おもちゃの作り方や遊び方を工夫することができる。
- ・友達と協力して遊ぶことができる。

○ 身近な環境や自分についての気付き

- ・身近な材料を上手に使うと、楽しいおもちゃを作ることができる。
- ・友達や異学年児童と楽しく遊ぶことを通して、教えたり教えられたりするよさに気付く。

(3) 研究主題との関連

① 「よさ」を生かす工夫

第一分科会では、個の「よさ」とは、「一人一人の児童の願いや思いを実現させるためにその児童なりに思考・判断をし、表現する活動の中で発揮される個性的な働きであり、周囲の人たちからも共感を得られるもの」ととらえ、生活科においてはこのような「よさ」を生かすための具体的な指導法の工夫を次のように考えた。

○ 学習環境を整え、学習形態を工夫する

材料や道具をできるだけ豊富に揃えるとともに、活動しやすい場を設定し、児童に意欲が湧いてくるようにする。また、活動の場を教室だけでなく、活動内容に応じて場の設定を工夫したり、学習形態もグループ学習や個別学習に応じて工夫したりする。

○ 一人一人の考えを大切にする

本単元では、児童の一番好きなおもちゃを題材にして、「手作りの世界にひとつしかないおもちゃをつくろう。」と興味・関心をもたせるとともに、児童がこれまで生活の中で身に付けてきた技能や知識を精一杯はたらかせて、自分の描いたおもちゃにより近いものを作ることができるように励ます。

- 自分の考えを表現したり、考えの違いを認め合えるようにする。

本単元の学習では、友達や周りのものの「よさ」取り入れることの大切さを確認する。一人一人の児童の意欲を喚起するために自分のアイデアを大切にさせ、友達の「よさ」や参考になるところを取り入れてもよいことを知らせ、友達同士で協力したり手伝ったりすることができるようにする。

- 評価を工夫する。

一人一人の児童に期待する姿を明らかにするとともに、1時間1時間の授業における児童の活動の様子や児童と教師及び児童相互の人間関係をつぶさに見つめ、一人一人の児童の個性を生かすように評価を行う。また、児童が自分の学習の仕方や態度を振り返り、新たな学習への意欲が高まるような評価を工夫する。

② 教師の支援

一人一人の児童の「よさ」が発揮できるようにするには、教師が児童の興味・関心・意欲を大切にしていくことが重要である。本時の生活科の授業においても、教師の役割を「計画者」「指導者」「支援者」と位置付け、児童の「よさ」を引き出し、発揮させようとした。

- 計画者（プランナー）として

- ・生活科は具体的で体験的な活動の連続であり、その活動の中で児童の偶発的な活動も見通した事前の計画が大切である。
- ・教師は児童の興味・関心等についての理解を深めて、児童と同じ視線で学習材を探したり調べたりして、これらに基づいて活動計画を立てる。

- 指導者（リーダー）として

- ・教師は児童にどのような活動や体験をさせ、何に気付かせるかなど、ねらいを達成するための手立てと見通しをもつ。
- ・活動の場面では、「子どもと一緒に作るという姿勢」をもつ。
- ・資源の大切さにも触れ、道具の使い方などの安全についてもきちんと指導する。

- 支援者（サポーター）として

- ・教師は事前に見通しをもって指導計画を立てるが、児童たちの活動が始まると支援者としての立場に立つ。
- ・児童の意欲や自発性を大切にし、認め励まし、教師自身が児童の活動に共感的に接する。

(4) 児童の実態

○ 子どもたちは、作業や観察をしたり、調べたりする体験的学習が主な生活科が大好きである。初めて知ったことや見たこと、経験したことなどを盛んに発表したがる。

おもちゃについては、1年生でブンブンごまやどんぐりごま作りを行った。紙飛行機などの遊び道具作りは、喜んで行う。

○ 理解や作業の遅れがちな子に対しては、ほとんどの子が手を差し伸べようとする優しさがある。しかし、一緒に考えていくときの手順や手立てがわからないために、押しつけがましくなってしまうことが多い。

(5) 活動計画（全10時間扱い）

- | | | |
|--------------|------------------|-----|
| ① 動くおもちゃを作る。 | ・動くおもちゃを考えよう。 | 2時間 |
| | ・動くおもちゃを作ろう。 | 3時間 |
| ② ○○○ランドを作る。 | ・○○○ランドの計画を立てよう。 | 3時間 |
| | ・○○○ランドで遊ぼう。 | 2時間 |

(6) 本時の展開 3/10時

- | | |
|-------|---------------------------------|
| ① ねらい | ・動くおもちゃを作る。
・自分や友だちのよさに気付く。 |
| ② 展開 | 評価基準(◎関心・意欲・態度 ○思考・判断 △表現 □気付き) |

児 童 の 活 動	教 師 の 支 援
○おもちゃ作りを始める。◎○	・材料と道具は、使い易いようにコーナーに置き、そろえておく。 ・作業場と遊び場を分けておく。 ・修理・お助け工場（教師担当）を用意する。
○作品を見せ合ったり、相談し合ったりして工夫したり改良したりする。◎△□	・遊び→工夫と繰り返し行うようにさせる。 ・友だちの作品のよいところを見るようにさせる。（動き方、でき上がり、動かし方等） ・作業の困難な子には援助する。 ・友だちと一緒に遊んだり、競争させたりする。
○自分の作品のよさを発表する。△○	・さらに工夫できるところを考えさせる。

③ 評価

- ・動くおもちゃが作れたか。
- ・自分や友達のよさに気付いたか。

(7) 考察

本時の学習では、一人一人の児童の思い描いた設計図を参考にしながら、おもちゃ作りを行った。また、材料や道具をできるだけ豊富に揃えるように学習環境を整えた。

そこで、児童は設計図と用意された材料や道具を前にして、意欲的におもちゃ作りを行った。形や模様を工夫している、自動車の車輪の取り付け方に努力している、浮力を考えながら船作りに励んでいる、ゴムを動力として利用しようと考えているというように、一人一人の児童が課題の解決に向けて活動していた。

しかし、例えば、牛乳キャップを車輪にしても動かないと指導者が分かっているときに、児童にどのように働きかけるのが「支援」なのか、支援の時期と方法について詳しく考えることが課題として残った。また、年間指導計画の中で、他教科の学習内容との関連をしっかりと位置付けておくこと、自己評価法の工夫、環境の整備等が課題として残った。

4 研究のまとめと今後の課題

本分科会では、研究の仮説に基づいて実証授業を行い、その結果、次のようなことが明らかになってきた。

(1) 研究の成果

- ① 個の興味・関心・技能・知識・願いを生かした学習過程を通して、一人一人の児童の「よさ」を発揮させることができた。
- ② 互いに認め合う場を設定することによって、意欲的に知識や技能を身に付けようとする態度ができた。
- ③ 学習カードなどを活用し、自己評価・相互評価をさせることによって、新たな意欲をもたせることができた。

(2) 今後の課題

- ① それぞれの学習場面でどのようなことが「よさ」なのか、また、それを生かすにはどのような支援が適切なのか、共通理解を深める。
- ② 児童の発想や選択を尊重しながら、学習計画やねらいを達成していく方法を工夫する。
- ③ 自分や他の「よさ」を認めることができる評価方法を工夫する。

IV 第二分科会

児童が主体的に学習するための支援の在り方

1 分科会研究主題設定の理由

新しい時代に生きる子どもたちに求められる資質は、「何事にも興味・関心をもって取り組む意欲や態度」や「いかなる困難にぶつかっても強くたくましく乗り越えることのできる強靱な意志力」、「課題を解決するために必要な思考力や判断力、創造力、想像力」等であると考えられる。

そこで本分科会では、これまでの教師が中心となって授業を進めがちであった授業形態を、児童一人一人が自ら課題をもち、その課題を自ら解決できるように、教師がすることにより、児童は主体的に学習するようになると考えた。そして、そのために必要な教師の支援の視点を次のように定めた。

- (1) 興味・関心をもてるような学習材を用意する。
- (2) 課題解決に必要な学習材や学習情報を用意する。
- (3) 自己実現の喜びや成就感をもたせるようにする。

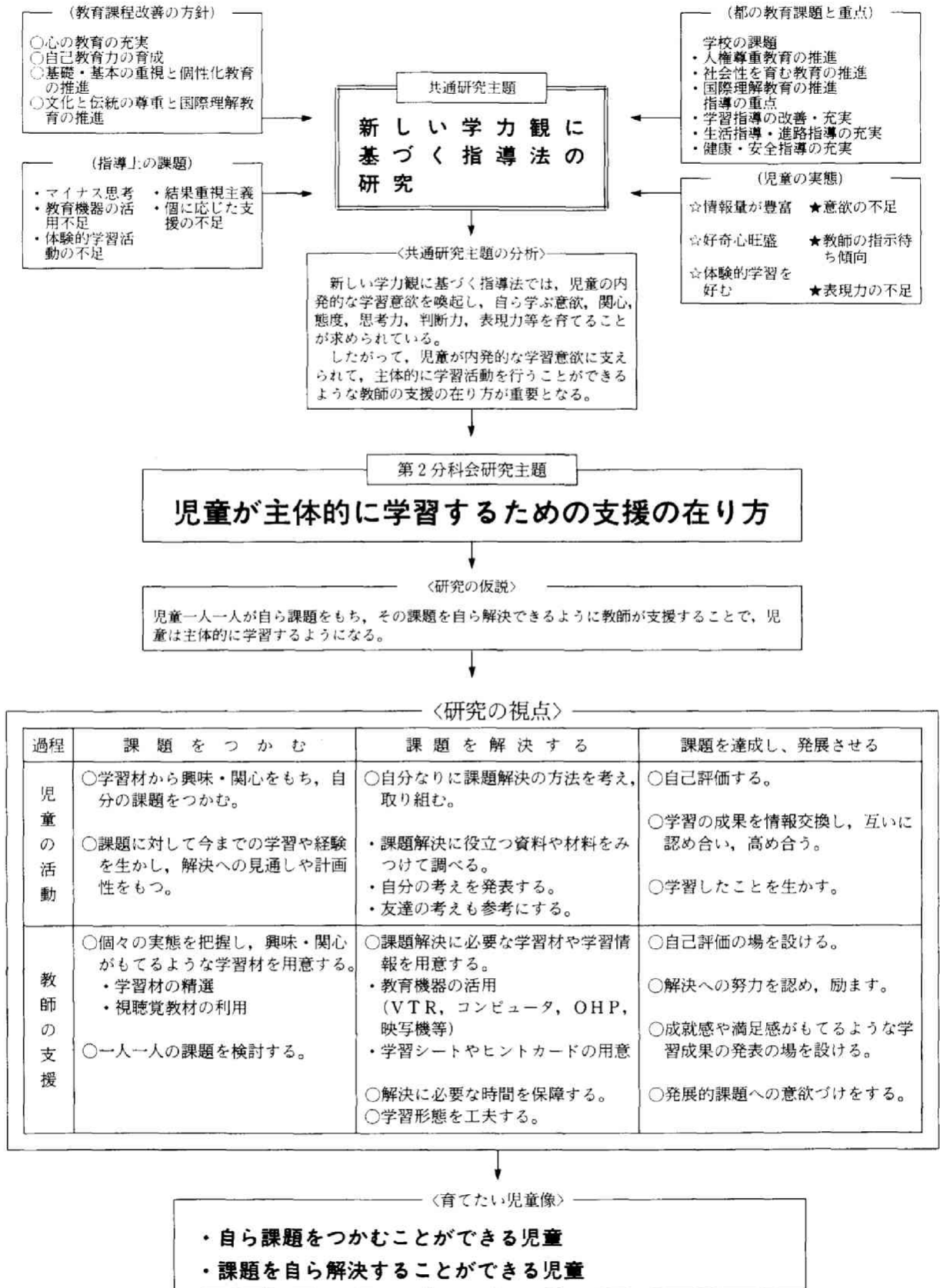
教師がこのような視点に立ち、支援を行うことによって、一人一人の児童が主体的に学習に取り組むようになると考え、研究主題を「児童が主体的に学習するための支援の在り方」と設定した。

2 研究のねらいと仮説

児童一人一人が主体的に学習に取り組むために、学習活動をどのように支援すればよいかを明らかにするため、次のような仮説を設定し、研究を進めることにした。

児童一人一人が自ら課題をもち、その課題を自ら解決できるように、教師がすることにより、児童と主体的に学習するようになる。

研究の構想図



3 実践事例 (第6学年 体育科)

(1) 単元名 機械運動「跳び箱運動」

(2) 単元のねらい

(3) 研究主題との関連

本分科会の研究主題である「児童が主体的に学習するための支援の在り方」を受け、体育の授業では児童が主体的に取り組むことができる学習過程を「課題をつかむ」「課題を解決する」「課題を達成し、発展させる」と押さえ、学習に対する児童の姿を下記のように設定した。

- ① 運動の内容が分かり、方法や順序が分かる。
- ② 試してみて、自分の力が分かる。
- ③ どんな学習をして、どこに目標を設定するのか、自分の力に適した課題をつかむ。
- ④ 解決の方法(練習方法)が分かる。
- ⑤ 自分にあった学習計画が立てられる。
- ⑥ 安全に気をつけ、約束を守り、助け合って、根気強く練習ができる。
- ⑦ 進歩の状況が分かり、評価・反省して次の課題をつかむ。

また、上記①から⑦に見られるような児童の姿を具現するために、つぎのような教師の支援が大切であると考えた。

- 運動についてのオリエンテーションを十分に行う。…………… ①
- 自分で課題をつかめない児童に助言する。…………… ②
- 易から難へと達成可能な発展的課題の意欲づけをする。…………… ③
- 学習材・学習形態・学習環境の場の設定について工夫する。…………… ④⑤⑥
- 児童の考えを大切にす。…………… ⑥
- 課題解決に必要な時間を確保する。…………… ⑥
- 認め励ますことで意欲をもたせる。…………… ⑥⑦
- 自分もできたという体験を重ねさせ成就感や満足感を味わわせる。…………… ⑦

(4) 児童の実態

明るく闊達な児童が多い。与えられた課題に対しては、こつこつと真面目に取り組む。しかし、自ら課題を見出そうとする姿勢があまり見られない。また、創意工夫して課題を解決しようとする態度もあまり身に付いていない。そこで、本研究主題にあるように、児童が主体的に学習するための教師の支援が大切であると考えた。

本時の体育の学習に対する児童の実態は、次のとおりである。

- ・ 体育の学習 好き……20名 普通……11名 嫌い……1名
- ・ 跳び箱運動 好き……21名 普通……10名 嫌い……1名
- ・ 跳び箱運動では「新しい技ができるようになったとき」にやる気が出てくるのに対して、「跳べないとき」「前に跳べたのに跳べなくなるとき」につまらないと感じている。
- ・ 上達するには「繰り返しの練習」「できる人に教わる」が多くあげられている。

(5) 学習過程〈跳び箱運動：4時間6回扱い〉

段 階	課 題 を つ か む		課 題 を 達 成 し , 発 展 す る			
	1	2	3 (本時)	4	5	6
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで運動に取り組もうとする。 ○励まし合って運動しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○技に挑戦する楽しさや技ができる楽しさを求めて意欲的に運動しようとする。 ○友だちの動きを見て、互いに励まし合って運動しようとする。 			
	○きまりを守り、場の安全に留意して運動しようとする。					
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に適しためあてをみつけ、学習の見通しをもつことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてを達成するために、活動の仕方を考えたり練習法補を工夫したりすることができる。 			
学 習 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○VTR, 図, 学習資料で跳び箱運動の学習のねらいや方法を知る。 ○開脚跳び, かかえ込み跳び, 頭はね跳びをして自分の力を知る。 ○自分に適しためあてをもつ。 ○学習の場の使い方やきまりを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてを達成するために、工夫して練習する。 ○自分のめあてについて、追加・修正をする。 《めあて①》 ○今できる技に取り組み、できばえを確かめる。 《めあて②》 ○少し努力すればできそうなめあてを決める。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてが達成できたか確かめる。 ○学習の成果を発表し確かめ合う。 ○互いの進歩を認め合う。 	
教師の支援・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カード等で運動の方法を知らせる。 ○技能のポイントを確認させる。 ○各自に適しためあてがもてるように助言する。 ○学習のきまりや場の設定の仕方を理解させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○学習資料やカードをもとにめあてを明確につかませる。 《めあて①》 ○踏み切り・着手・着地に気をつけさせる。 《めあて②》 ○練習の場でのポイントをおさえ、必要に応じてめあてを修正させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○互いに進歩したところを見い出し、成就感・満足感をもたせる。 ○互いの努力を認め合い、達成できたものを確認させる。 	

(6) 本時の学習

① 本時のねらい

関心 意欲 態度	○めあてに向かって、根気強く運動しようとする。 ○互いに励まし合いながら運動しようとする。 ○きまりを守って、安全に留意して運動しようとする。
思考 判断	○自分のめあてを達成するために、練習方法を考えたり工夫したりすることができる。
技能	○踏み切りから着地まで安定した動作で開脚跳び・かかえ込み跳び・頭はね跳びができる。

② 本時の展開

時	学 習 活 動	教師の支援・留意点	評 価
3	1. 集合し、整列する。 2. 準備運動をする。	○本時の学習への意欲を高める。	
40	3. 跳び箱の準備をする。 4. 跳び箱運動をする。 《めあて①》 ○今できる跳び越し方や高さ・向きに挑戦しできばえを確かめる。 《めあて②》 ○少し努力すればできそうな跳び方や跳び箱(高さ・向き)に挑戦し、できばえを確かめる。	○安全に気をつけて準備させる。 ○自分の力やめあてに合った練習を根気よくやっている児童に賞賛や励ましの言葉かけをする。 ○踏み切り・着手・着地などに気をつけるよう助言する。 ○めあてに向かって繰り返し取り組んでいる児童を賞賛する。 ○めあてを達成した児童を全体に紹介する。	○自分に適しためあてをもてたか。 ○自分のできばえを確かめることができたか。
45	5. 本時の学習を振り返り、次時のめあてをもたせる。 6. 整理運動をする。 7. 片付けをする。	○学習の振り返りを具体的にを行うことにより、次時のめあてをもてるようにする。	○めあてに向かって進んで運動したか

(7) 授業の考察

- 本時の学習では、課題をつかむ段階で、VTR教材や学習カード等を使って十分なオリエンテーションを行ったため、一人一人の児童が学習のめあてをもって取り組み主体的に学習することができた。それは、児童が跳び箱に興味・関心を抱いたため「児童が自分の能力にあっためあてを設定することができたため」等によるものと考えられる。

学習終了後、児童の学習カードに『わたしは、テレビを見て（VTR教材）自分の目標がはっきりした。跳び箱はあまり好きではなかったけれど、少しやる気が出ました。』とあったが、教師の支援の一つであると押さえた「オリエンテーションを十分に行う」ことの効果が出たものと思われる。

- 一人一人のめあてを生かすために、授業でめあて①とめあて②の流れを取り入れた。めあて①で、今、もっている力で運動を楽しむことにより、成就感、満足感を児童が十分に味わうことができ、難しいことや新しいことに挑戦する意欲が湧いてくることが分かった。

児童の学習カードに、『私は、開脚跳びで第一踏み切りを遠くからすることをめあて①にしたけれど、何回か練習して前よりしっかりできるようになったので、めあて②のかかえ込み跳び箱第五段横を跳ぶことができるようになりました。』というものがあつたが、これも教師の支援の一つであると考え、「易から難へと達成可能な発展的課題による意欲づけをする。」を実証したものと考えられる。

- 本時を通して、次のことが今後の課題として明らかとなった。
 - ・学習カードなどの活用を通して児童一人一人が自己評価ができるようになったが児童相互による評価法の開発や評価の工夫が必要である。
 - ・教師が児童一人一人の学習のめあてに対して、適時、適切な支援を行えるような方法等の開発や工夫をする。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

本分科会では、児童が主体的に学習するための支援の在り方に視点をおいて、新しい学力観に基づく指導法の研究を進めてきた。この研究の中では、児童が学習課題をつかみ解決に向けて活動する一人一人の児童を教師がどう支援していくかに着目し、「課題をつかむ」「課題を解決する」「課題を達成し、発展させる」の学習過程ごとに教師の支援の在り方と児童の姿を明らかにしてきた。

その結果、次のことが明らかになった。

・課題をつかむ段階

興味・関心がもてるような学習材を用意することによって、課題解決への見通しを持ち、自分で学習計画をもてるようになった。

・課題を解決する

視聴覚教材（VTR、OHP、映写機、掛け図等）やコンピュータ、図書教材など課題解決に必要な学習情報を適時、適切に提供することによって、児童は学習コースの選択が可能となり、解決の方法が分かり、主体的に学習に取り組むことができるようになった。

なお、コンピュータを活用した授業では、一人の児童がコンピュータを一台使用するより、二人の児童が一台のコンピュータを活用する方が、児童相互の情報交換や解決方法の見直しが図られ、課題解決には良い結果を示すことが分かった。

また、児童相互の情報交換や解決方法の見直しが図られるようになった。

・課題を達成し、発展させる

児童の自己評価の場を設け、教師の一人一人の児童に応じた適切な賞賛や激励によって児童に新しい学習課題への意欲づけをすることができた。

(2) 今後の課題

- ・教師が児童一人一人の学習のめあてに対して、最も適切な支援を行うことができる方法の開発や工夫をする。
- ・学習過程の各段階ごとの教師の支援の在り方とともに、全教育活動における支援の在り方も研究する。
- ・児童相互による評価の研究をする。

V 第三分科会

一人一人の児童がより深い充実感を味わうための支援の在り方

1 分科会研究主題設定の理由

今日の学校教育では、基礎・基本を重視し、児童一人一人の個性を尊重し、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成が求められている。それらの具現化のためには、意欲的に問題に取り組む姿勢、問題解決のための知識や情報を活用する能力、他者を尊重しながら協力して問題解決にあたる態度などが必要である。言い換えるならば児童が興味・関心をもち、自ら学び、考え、判断し、表現することができ、自己実現を目指すようにしなければならない。すなわち自己教育力を高めることが新しい学力観による教育が目指すところである。その自己教育力を高めていくためには、児童を主体にした学習指導を推し進めていくことが大切である。

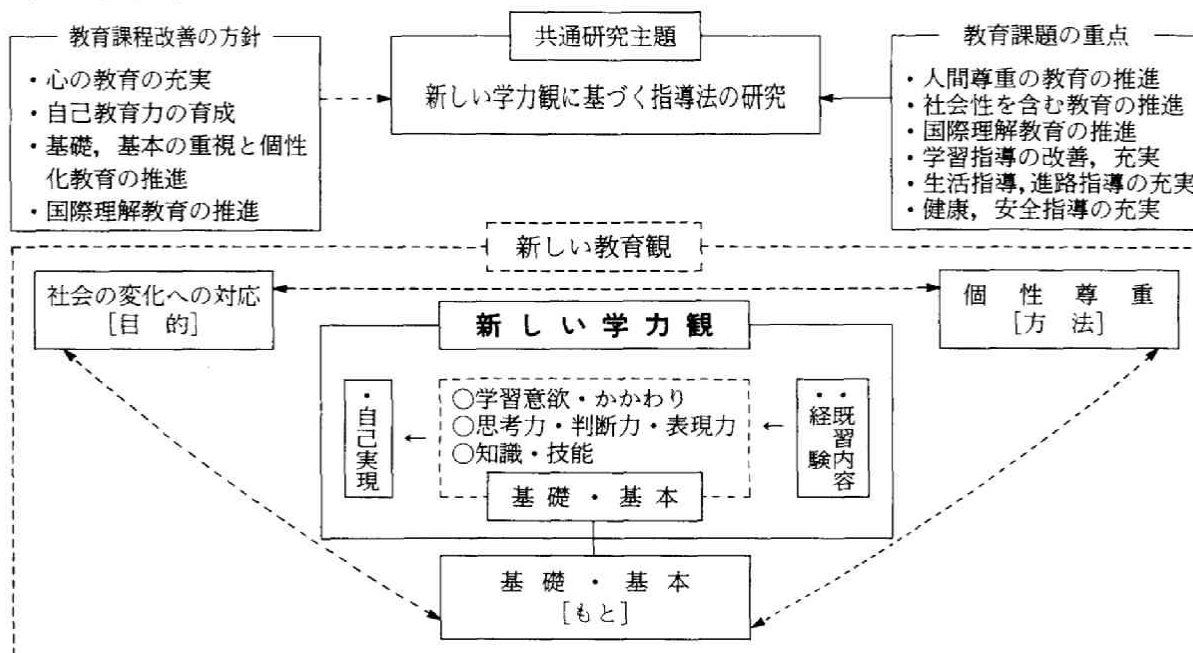
児童の側にたった学習指導、一人一人の課題や見通しを生かした多様な学習活動を推進する中で、児童は課題を達成したうれしさや、新たな学習活動への意欲のみならず、友達や教師から、自分のよさを認められることの喜びも得られるのではないかとと思われる。そして、その時児童はより深い充実感を味わえるのではないかと考える。それは受け身的な活動からは得られない主体的・能動的な学習活動のみによって、得られるところの充実感である。

2 研究のねらいと仮説

本分科会では、「支援」を児童の意志を尊重し、児童の主体的な学習活動を促すものとしてとらえ、以下のような研究の仮説を設定した。

児童自らの課題や見通しを生かした多様な学習活動を教師が保障し、一人一人のよさを認めることによって、児童はより深い充実感を味わい、新たな活動に取り組んでいくことができる。

研究の構想図



《共通研究主題の分析》

新しい学力観に基づく指導法では、・個性の尊重・基礎基本の重視・社会の変化に主体的に対応できる能力の育成が互いに響き合うような形（新しい教育観）で具現化されなければならない。
 そこで、従来の教師主導のパターンから、児童の内発的な学習意欲を喚起し、児童の側にたつ学習指導が展開される必要がある。そのためには、学習環境、指導方法、評価における望ましい教師の在り方が重要となる。

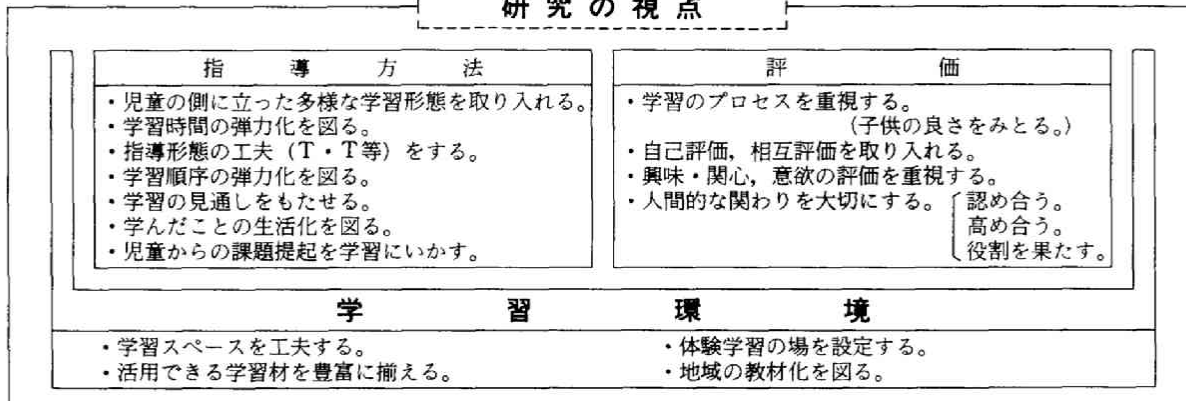
第3分科会研究主題

一人一人の児童がより深い充実感を味わうための支援の在り方

《研究の仮説》

児童自らの課題や見通しを生かした多様な学習活動を保障し、一人一人のよさを認めることにより、児童はより深い充実感を味わい、新たな活動に取り組んでいくことができる。

研究の視点



育てたい児童像

- ① 自ら進んで課題を見つけ、取り組むことができる児童
- ② たがいにかけあひ、高め合うことができる児童
- ③ 学んだことを生活の中に生かしていくことができる児童

3 実践事例（第6学年 社会科）

(1) 小单元名 「移り変わる社会」

(2) 小单元の目標

- 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人を中心とした文化が起こったこと、政治の行き詰まりを変えようとする新しい学問が起こったこと、国の内外の変化により開国を余儀なくさせられたことをとらえることができるようにする。
- 年表・写真・文書資料から、この時代の特色を多面的にとらえることができるようにする。

〔観点別評価基準〕

- 社会的事象への関心・意欲・態度
 - ・進んで江戸時代の社会の移り変わりについて調べようとする。
- 社会的な思考・判断
 - ・江戸時代の社会はどのように移り変わっていったのかを考える。
 - ・幕府の支配力がどうして弱まってきたのかを考える。
- 観察・資料活用の技能・表現
 - ・調べたことをまとめ、年表や資料を活用して発表会で発表することができる。
 - ・他のグループの発表で良い所を取り入れ、自分たちの発表に生かすことができる。
- 社会的事象についての知識・理解
 - ・江戸時代の社会の移り変わりの様子について理解することができる。

(3) 研究主題との関連

〈学習環境について〉

児童一人一人に、その子なりの学習方法で主体的に学習を進めさせていくためには、児童の要求にこたえ、児童が自由に選択し、活用できる多種多様な学習材を豊富にそろえることが大切であると考えた。また児童の学習意欲を喚起するために、学習の内容やスタイルに合わせた学習スペースを広げていくことも有効な手段であると考えた。

さらに、児童自身が対象物に直接働きかけ、見たり触れたりなど諸感覚を使って学習する活動を通して、児童に学ぶことの楽しさや成就感を体得させたい。

- 学習スペースを児童が自己選択できるようにする。
- 視聴覚機器を自由に使用することができるようにする。
- 資料を探し易いように整理しておく。

〈指導方法について〉

児童が学習の主体者として積極的に活動し問題を解決する授業への改善を目指し、多様な学習形態や学習活動を取り入れるよう考えた。また、個に応じるために効果的な指導方法を導入することも必要であると思われる。

- 自分で調べたいことを選択できるようにする。
- グループで話し合い、お互いの考えを知り、自分の考えをより明確にできるようにする。
- 少人数でグループ学習を進め、一人一人の考えを大切にすることができるようにする。
- 発表方法を自分たちで考え、計画的に準備することができるようにする。

〈評価について〉

児童の側に立った評価という発想に基づき、児童一人一人が学習の過程で、どのような点に興味・関心を抱いているのか、つまづいている箇所はどこかなど、学習展開に合わせて個に応じた評価とその対応が必要である。

また、自己評価、相互評価を重視することで、自分自身の学習方法を見直すと同時に、児童相互の励まし合い認め合いが行われ、学習意欲の一層の向上につながると考えた。

- グループで学習を進める中で、友達の考えを認めたり、自分の考えにそれを取り入れたりしていくことができるようにする。
- 学習を進める中で、自分の考えを明確にする場面を取り入れる。

(4) 児童の実態について

学級の雰囲気は明るく、活発である。男女の仲が良く、班活動など男女協力してものごとに取り組むことができる。決められたことなどはきちんと守り、てきぱきと行動することができる。

歴史学習に対してたいへん興味をもっている。そして、未知のことについて積極的に知りたいという意欲ももっている。この児童の気持ちを生かしていくことが大切である。

また、歴史上の人物についてもあまり知らないので、焦点をあてて取り上げていくことが効果的である。

1学期に行った歴史新聞作りでは、その時代について自分の考えを社説という形で表したが、個別学習だけでは、なかなか考えが深まらない児童も見られた。

今までに、「聖武天皇と奈良の大仏」「3人の武将と天下統一」の小単元で今回の学習方法を取り入れてきたが、児童はたいへん意欲的に学習活動を行っていた。しかし、発表方法が内容に合っていない面も見られたので、自分たちが調べたことを友達にわかるように発表方法を工夫していくことの大切さを教えさせたい。

(5) 単元の指導計画（8時間扱い）

		学 習 活 動 ・ 内 容	教 師 の 支 援 等	評 価
つ か む	1	○絵や文章などを手がかりに、町人の台頭の様子とその文化の特色、農村の様子、さらに、社会の移り変わりについて調べる学習問題を設定し学習に対する意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎のビデオや浮世絵等を見せ、学習の意欲づけをする。 ・児童が問題解決に必要な資料を自由に選択活用できるようにする。 ・問題解決に有効・適切な資料を準備し、紹介する。また児童の持ち寄った資料も紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が何について調べるか明確にすることができたか。
取 り 組 む	5 (本 時 3 / 5)	<p>○町人文化、農民の生活・百姓一揆や打ちこわし、国学・蘭学の発展開国等について個人で調べたいことを明確にして調べる。</p> <p>◎調べたことを基にグループでまとめ、情報を交換しあう。学習問題に対する自分の考えを明確にする（教室・共用室等から自分たちが学習しやすい場所を選択する）</p> <p>○発表会に向けて、自分たちが調べたことを他のグループが分かるように発表の仕方を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習手順が明確でない児童のために、ヒントカードを用意する。 ・効果的な図書資料の活用方法としてコピーを利用する。 ・発言の少ない児童に調べたことをもとに意見を言うように助言する。 ・役割分担等でてまどっているグループには、話し合いが短時間でできるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を効果的に活用し、まとめることができたか。 ・調べて分かったことを基にグループで内容をまとめることができたか。 ・発表方法を工夫することができたか。
発 展 ・ 深 め さ せ る	2	<p>○他のグループの発表を聞き、学習問題について様々な意見を知り、自分の考えに取り入れる。</p> <p>○江戸時代の社会の移り変わりについて、学習内容をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞いて書いた感想や疑問の内容を確認し、挙手をしない児童も意図的に指名する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の社会の移り変わりについてまとめることができたか。

(6) 本時の学習指導 [8時間扱いの4時間目]

① ねらい・調べたことを基にグループでまとめる。

・学習問題に対する自分の考えを明確にする。

② 展開

主な学習活動	教師の支援	評価観点
○本時のめあてを確認する。		
(調べたことをグループで話し合い、まとめよう。)		
○各グループごとに調べたことを基に話し合い、グループのまとめを行う。 (教室・共用室・児童会室等から学習しやすい場所を選択する。)	○教室・共用室・児童会室等を自由に使用できるように準備する。 ○発言の少ない児童に調べたことを基に意見を言うように助言する。 ○友達のまとめを必要に応じてコピーできるように準備する。	○調べたことを基に発表しているか。 ○グループの発表内容を明確にすることができたか。 ○発表方法について見通しをたてることができたか。
○まとめが終わったグループは、発表方法について見通しをたてる。	○グループの発表内容がわかりやすくまとめられるように、話し合いのポイントを助言する。	
○グループの学習の進行状況を発表する。	○わかりやすい発表方法でグループのまとめができるように助言する。	

③ 評価・調べたことを基にグループでまとめることができたか。

・学習問題に対する自分の考えを明確にするにすることができたか。

(7) 考察

個に応じた指導を行うために、児童の興味・関心に合わせ、調べたいことを自由に設定させた。このような学習形態は、児童の意欲の向上に役立ち、自ら資料を集めたり、友達との情報交換を進んで行ったりするなど、主体的に学習する姿勢を引き出すことにつながった。

また、児童一人一人が、自分なりの学習方法で主体的に学習を進めていくことができるようにするために、本単元では、学習スペースを自分たちで自由に選択させ、話し合いや発表会の準備をさせた。そのことにより、児童は、他のグループを気にせず活動することができたので、意欲的に取り組み休み時間などその場を使って、学習を進めることができた。また、視聴覚機器等を自由に使用させたので、発表内容で、OHPを使用した紙しばいや物語にまとめたものやニュース形式など様々な方法が出されてきた。

学習の流れも個人で調べたことから、少人数でのグループ学習そして学級全体での発表会というスタイルをとったので、一人一人が自分の考えをしっかりと持ち、その考えをグループや学級で発表することができた。また、友達との話し合いを通して、自分自身の考えを見直したり、友達の良さを認めることができ、その結果ワークシートの中には発表の良い点が多く書かれていた。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

- 豊富な学習材をそろえ、学習スペースを含めた学習環境を工夫することで、児童の学習意欲を喚起し、学習の深まりと広がりを見ることができた。
- 多様な学習形態や効果的な指導方法を取り入れることで、児童が主体的に学習するようになってきた。
- 学習のプロセスを重視し、児童のよさを評価することで、児童が新たな課題に意欲的に取り組むようになった。

(2) 今後の課題

- 学習したことが児童の生活に生かされるように、指導の工夫を一層図っていきたい。
- 地域の自然・施設・人材等を学習材として有効に位置づけていきたい。
- 児童のよさを見取るために、より多面的な評価を継続的に行い、個に応じた評価を行っていきたい。

VI 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

共通研究主題「新しい学力観に基づく指導法の研究」に迫るために、本年度は3つの分科会を構成して、研究に取り組んだ。

本研究では、①一人一人の「よさ」を生かすための支援の在り方（第一分科会）、②児童が主体的に学習するための支援の在り方（第2分科会）、③一人一人の児童がより深い充実感を味わうための支援の在り方（第3分科会）と、各分科会がそれぞれの研究を進める視点を決め研究の構想図を作成し、研究のねらい、仮説、方法を明確にすることに努めた。

その結果、研究のまとめとして、次の3点が明らかになった。

- (1) 児童一人一人の興味・関心や願いや思いを生かした学習過程を工夫し、児童相互が認め合う学習の場を設定することによって、意欲的に学習に取り組むようになり、一人一人の児童の「よさ」が発揮されるようになった。
- (2) 児童が興味・関心をもつ学習材を用意し、課題解決に必要な学習情報の適切な提供や教師の一人一人の児童に対する適切な賞賛や激励によって、児童が主体的に学習するようになった。
- (3) 「適切な学習材と学習スペースの用意」「多様な学習形態の工夫」「学習のプロセスを重視すること」によって、児童は意欲的に学習するようになり、より深い充実感を味わえるようになった。

2 今後の課題

本年度は、次の点が今後さらに深めたい課題として残った。

- (1) 教師が児童の「よさ」を見い出すだけでなく、児童自身が自分や他の人の「よさ」を見い出していけるような工夫をしていきたい。
- (2) 学習の過程における支援の在り方とともに、学習活動、学習形態、学習材の提示、学習環境の工夫などの視点からも支援の在り方を見つめなおしていく必要がある。
- (3) 学習飽教を地域に広げ、地域の自然・施設・人材等を学習材として有効に位置づけていく必要がある。